Ｐ１・議長新年あいさつ
Ｐ２・2017年新春のつどい
　　兼 地協結成50周年記念レセプション
Ｐ３・第５０回定期大会
　　・第４９回拡大幹事会
Ｐ４・経営分析講座
　　・ライフアップセミナー

とちぎ

電機連合栃木地方協議会機関紙
発行者　：　中原　康則
編集者　：　島田　　猛
事務局：329-1105
栃木県宇都宮市中岡本町 2784-3 飛鳥ビル 2F
TEL ： 028-671-3333　FAX ： 028-673-7777

新年おめでとうございます

電機連合栃木地方協議会　議長　中原康則

明けましておめでとうございます。新年が皆さまにとりまして、幸多き年となりますことを心からご祈念申し上げます。

さて、昨年の地協活動における最大の成果は、７月施行の第24回参議院議員選挙での電機連合組織内公認新人候補「矢田わか子」氏の当選を勝ち取ることができたことです。ご尽力頂きました地協加盟組合そして支援組織・労組に対しまして、心から深謝致すとともに、「矢田わか子」参議院議員の政治活動を今後も力強く支えていくことが肝要と考えますので、引き続き宜しくお願い致します。

ご案内の通り、私たちを取り巻く環境は、グローバル化やボーダーレス化の進展に伴い、近年大きく様変わりしてきています。現政権において、大胆な金融緩和、機動的な財政出動、民間投資を喚起する成長戦略等による景気刺激策によって、一部においては有効に機能している施策もありますが、将来の世代への借金を先送りしている構造に変わりはなく、国民が実感できる真の景気回復には至っていない状況でもあります。

そのような中における私たち労働組合の果たすべき役割と責任は、働く者の立場を十分認識し、組合員の雇用を守り、安心で安定した生活と公平・公正な社会の実現に向け、企業や産業に働きかけていくことに加え、社会への働きかけ、とりわけ政策制度の改善への取り組みに、仲間の力を結集し力強く、そして誠心誠意取り組んでいくことが必要と考えます。

電機連合栃木地協は、このような変化が激しく厳しい環境下にあって、地協の果たすべき役割と責任をしっかり認識しながら、組織が一体となって前向きに取り組んでいきたいと考えます。

最後になりますが、加盟組合・関係組織の更なる飛躍・発展と、地協結成50周年を迎える本年、これまで以上のご支援・ご協力をご祈念申し上げ、新年のごあいさつと致します。どうか宜しくお願い申し上げます。

電機連合栃木地協は
浅野さとしの政治活動を応援しています。

栃木地協ホームページ　http://www.jeiu.jp/tochigi/

2017年新春のつどい 兼 地協結成50周年記念レセプション

２０１７年１月20日（金）18時から、宇都宮市内「ホテルニューイタヤ」において、「２０１７年新春のつどい兼地協結成50周年記念レセプション」を盛大に開催しました。

今回は連合栃木、友誼団体、自主福祉団体、会社関係、電機栃木推薦議員、組織内議員、フォーラム協力議員、電機連合本部等に加え電機連合関東ブロック、役員ＯＢをお招きし開催しました。

司会は田村事務局長が務め、小関副議長が開会の挨拶を行い、主催者代表挨拶として中原議長がご出席いただいた参加者に対して謝辞を述べるとともに２０１７年総合労働条件改善闘争と栃木地協50周年についての２点について挨拶をされました。

２０１７年総合労働条件改善闘争については、電機連合として４年連続の賃金水準の改善に取り組みますが、中闘組合企業13社の業績は回復基調にあるもののイギリスのＥＵ離脱やアメリカのトランプ大統領就任により、円高が進む可能性があるなど不透明感がある中で厳しい交渉が予想されます。しかし、生活不安・雇用不安・将来不安の払拭とともに電機産業の発展を目指し、地協としても組合間の情報共有などを行ないながら最大限の努力をすることを述べられました。

栃木地協50周年記念については、１９６７年８月に６組合６０００人で結成し、北関東地協から分離独立したこと、結成から現在に至るまでの歴代議長と事務局長の紹介、更には栃木地協のこれまでのあゆみ、そして半世紀という重みを感じながら、諸先輩が築き上げた偉大な歴史と伝統を引き継ぎ、今後も飛躍し続けることを加盟組合役員と組合員ともにしていきたいと述べられました。

最後に地協の活動は、労働者の視点で生活と雇用の安定を大前提に、従業員にとって良いこと、会社にとって良いこと、社会にとって良いことの三方良しの精神で活動を進めていきたいと挨拶をされました。

その後、ご来賓の中から会社関係、電機連合本部、連合栃木、自主福祉団体より代表者４名から祝辞をいただきました。

恒例の鏡開きでは例年の１樽から２樽に増やし、代表者９名がはっぴを着て、声高らかな掛け声のもと威勢の良い鏡開きが行われ、全労済栃木県本部印南本部長の乾杯のご発声と大杯による乾杯で開宴しました。

乾杯後は電機栃木推薦議員、組織内議員、フォーラム協力議員の10名より力強くて熱いスピーチが行われました。

その後の抽選会では、地協結成50周年記念ということもあり、高額な賞品やその他多数の豪華賞品が用意されました。抽選会は組政部が担当し、スムーズな進行のもと、当選者の名前を呼び上げるたびに会場内では大歓声が上がっていました。

抽選会後は恒例の田村事務局長によるマジックショーが行われました。今年の新しいネタには会場中が大喝采でした。

最後は小峰副議長の本締めにより、盛り上がったひと時がお開きとなりました。

今回の「２０１７年新春のつどい兼地協結成50周年記念レセプション」により、中原議長を中心とした栃木地協の結束力がより高まったことを実感できました。

節目の50回で更なる飛躍を誓う
～ 第50回定期大会 ～

地協代表挨拶をする中原議長

２０１６年９月16日（金）14時から、宇都宮市内「ホテルニューイタヤ」において、今回で50回の節目となる栃木地協定期大会を開催致しました。

当日は、電機連合本部から小山中央執行委員、連合栃木からは、地協の特別副議長でもある加藤剛会長など多くの来賓が出席する中、盛会裡に開催することが出来ました。

今回の提起議案として、２０１６・２０１７年度運動方針を初め、２０１６年度予算、役員改選、退任役員表彰など、全議案が満場一致で機関確認されました。

最後には、中原議長のガンバロー三唱を行ない、地協の更なる飛躍・発展を、代議員・役員全員で誓い合いました。

ガンバロー三唱で更なる飛躍・発展を誓い合う出席者

栃木地協加盟組合の未来に向けて
～ 第49回拡大幹事会 ～

電機連合栃木地協「第49回拡大幹事会」が11月25日（金）日光市で開催されました。

この拡大幹事会は、栃木地協が全国発祥の地であり、県内各組合の役員が一堂に会し、活動に対する意見交換を行なうことの大切さが認知され、後に全国各地に広まった会議です。先駆者たちの熱い想いにより歴史を重ね、来年は節目となる50回目の開催を迎えます。この想いを今後60回・70回そして100回と続けていくためには、私たち現役世代が努力を重ね、歴史と伝統を大切にし、加えて時代にマッチした活動の両面を後輩達にバトンを繋いでいくことが大切であると感じました。

ジャーナリスト
江川　紹子氏

第Ⅰ部では、ジャーナリストの江川紹子氏より、「混迷の現代社会を思う」と題し、アメリカ大統領トランプ氏誕生による未知なる時代への突入について。また、インターネットの普及に伴う新聞・メディア離れや、政府のメディアコントロールにより、正しい事や間違っている事が正確に伝えられなくなっており、また、市民団体や労働組合は社会的に機能されているのかとの問いかけなど、興味深い講演をいただきました。

第Ⅱ部では、電機連合本部の大津中央執行委員による「電機連合の政策・制度実現の取り組みについて」の講演、第Ⅲ部では昨年の第24回参議院議員選挙で当選を果たした矢田わか子氏による御礼挨拶と、国政報告がありました。皆様から沢山の声を寄せて欲しい、そして、いただいたご意見・要望をしっかりと国政に反映していきたいと力のこもった講演でした。

矢田わか子
参議院議員

全ての講演を通じ、改めて、「伝える力」の重要性と、個人では無理なことも組織力をもって可能にすることができる。そこに我々労働組合がきちんと機能することでより良い未来を築くことができることを再認識でき、有意義な時間を過ごすことができました。

組合視点で会社経営への提言のために
～経営分析講座～

11月10日（木）組合のための経営分析を目的とした『第六回経営分析講座』が開催されました。今回も公認会計士・税理士の谷津範之さんを講師に迎え、コロンブス航海での賃借を題材とした複式簿記の原理や有価証券報告書を使っての財務分析などわかりやすく解説して頂きました。

この講座で学んだ基礎的な分析手法を生かし、『生産性の分析』や『安全性の分析』を進めることで、春闘や労使交渉に役立たせるとともに、組合員さんにもわかり易く会社の経営状況の説明や情報開示ができると感じました。また、コンプライアンスの担い手として、会社の経営状況をチェックし、経営の意思決定を正確に把握し、提言できる体制を整えたいと思いました。

MEMC労組
巻島　利行

仕事と介護を両立できる社会の実現に向けて
～ライフアップセミナー～

12月16日に開催された「第4回ライフアップセミナー」に参加しました。今回のセミナーは「介護」をテーマに、講演Ⅰでは㈱マックス市原推進役より「けんこう共済介護特約の新設」について、講演ⅡではSOMPOリスクケアマネジメント㈱山崎氏より「仕事と介護の両立」についての講話を拝聴しました。特に印象的だったのは、親が元気なうちに「どのように、どこまで介護してもらいたいか」を話し合っておくということでした。親の意思を知ることで、事前に準備ができ、突然要介護になっても慌てずに対応できると思いました。また、介護となった場合には、地域包括支援センターへの相談や適切な介護サービスを利用し、1人で頑張り過ぎないことが大切であることも知りました。今回の内容を今後の組合活動に活かしていきたいと考えております。

富士電機労組
大田原支部
桜井　ひろみ